

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第 10 号

2016 年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

## 目 次

はじめに .....	1
I 学術研究の交流	
I - 1 第 14 回日中国際学術セミナーの開催 .....	3
I - 2 東北アジア少数民族文化教育セミナーの開催 .....	10
I - 3 六次産業経済発展研究会の開催 .....	12
II 日中学術共同調査と共同研究等の成果	
II - 1 第 14 回セミナー後の日本における農村調査 .....	14
II - 2 5 月の陝西省現地調査の実施 .....	14
II - 3 9 月の寧夏自治区現地調査の実施 .....	17
II - 4 図書『中国農村における持続可能な地域づくり - 中国西部学術ネットワークからの報告 -』（編集 島根大学・寧夏大学国際共同研究所）の出版 .....	19
II - 5 研究費の獲得 .....	19
II - 6 著書・論文等 .....	20
III 2016 年度研究所活動の記録	
III - 1 研究交流活動	
III - 1 - 1 さくらサイエンスプランによる西北農林科技大学学生の受入 .....	26
III - 1 - 2 研究所運営に関する協議等 .....	30
III - 2 2016 年度その他の交流記録 .....	30
III - 2 - 1 島根県、松江市との情報交換・連携の強化 .....	30
III - 2 - 2 銀川における元日本留学研修経験者意見交換会・交流会の開催 .....	31
III - 3 留学生招致に係る活動	
III - 3 - 1 留学説明会 .....	31
III - 3 - 2 留学支援 .....	32
III - 4 資料・情報の提供	
III - 4 - 1 翻訳, 資料収集と提供 .....	32
III - 4 - 2 研究所メールマガジン『寧夏情報』 .....	32
III - 5 その他の活動等	
III - 5 - 1 寧夏大学外国語学院に対する支援 .....	32

Ⅲ - 5 - 2	研究所来訪実績 .....	32
Ⅳ	研究所の組織 .....	33
	2016 年度の運営体制	
	客員研究員名簿	
Ⅴ	資料その他	
V-1	新聞記事 .....	34
V-2	国際共同研究所ホームページ・トピックス .....	36
V-3	島根大学戦略的経費ポンチ絵 .....	46
V-4	事業計画 .....	46

## はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所（以下、研究所）は、中国西部の寧夏回族自治区の区都、銀川市のある寧夏大学のキャンパス内に設置されています。寧夏大学は、自治区を代表する総合大学で 211 工程指定の大学です。

本研究所の特徴は、わが国の大学の在中国サテライトオフィスの多くが沿海部にあるのに対して、唯一西部の内陸部に設置された研究所です。本研究所は 2004 年に JICA（当時の JBIC）の ODA 事業として建設され、独立した研究所棟を有し、中国側スタッフとともに島根大学と寧夏大学が共同で運営を行っています。研究所の創設以来の重要ミッションは、共同研究の中で人材育成を行うというもので、現在まで多様な外部資金を得て、寧夏大学等の若手研究者を含め研究チームをつくり研究を進めてきました。

これに加え、中国西部に立地する唯一のサテライト研究所という特徴を生かして、2009 年に「西部学術ネットワーク」を確立し、中国西北部の有力大学の研究者と研究のコンソーシアムを形成し、研究分野・研究対象範囲を拡大してきました。当初は島根大学と寧夏大学の研究者に限られていたメンバー・寧夏地域に限られていた対象地区から、現在では研究メンバー、研究分野、対象地域ともに拡大し、本来のミッションに従って若手研究者をふくめた共同研究は、農村開発問題、農畜産業技術、環境対策、環境教育など幅広い分野に及んできました。

近年では中国西北部の大学から優秀な留学生を集めるべく、留学説明会も各地で開催してきました。その成果もあり、中国西北部の大学との研究交流、学生交流も徐々に盛んになってきました。

研究所に関連する研究者の専門分野は、当初は社会科学中心で始まりましたが、現在では自然科学、人文科学の研究者も増加してきました。しかし、人材育成を兼ね、また研究対象の現場へのフィードバックも考えた調査研究は多くの時間を必要とします。時には日中政府間の問題により研究の遂行に支障が出ることもあります。

そんな状況のなかで、ここ数年間の実施してきた共同研究成果を取りまとめ、今年度末に学術図書を発行する予定です。これにより本研究所の学術成果、存在意義を広く世に示す機会であると考えています。

このような中で、島根大学においては削減される予算の中で各学部、付属研究所・センターのパフォーマンスを高めるために、執行部中心の改革が行われつつあります。わが研究所も、その一環でより成果（学術研究成果）の出せる研究所への体制作りが急務になっています。今後、研究所は従来の方針・ミッションから、要求を満たすように、大きく変化せざるを得ないことも予想されます。来年度以降の研究所の形態は未定ですが、本年報に記されている多くの分野でより実り多い成果が出せるようにしたいと考えています。

本年報は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所が 2016 年度に行ってきた各種事業をとりまとめたもので、今回で第 10 号になります。

本年度は、定期的に行っている日中国際学術セミナーを島根大学で 10 月に開催しました。国内外の大学から約 40 本の報告があり、中国から若手研究者も多く参加されました。セミナーでは学術報告だけでなく日中の大学が直面している地域貢献等についても活発な議論が行われました。報告内容については別途プロシーディングを出版する予定です。

また、研究所が中心になって申請した「JST さくらサイエンスプログラム」が採択され、「西部学術ネットワーク」のメンバーで、島根大学とも交流提携を締結した西北農林科技大学から 9 名の学生、1 名の引率教員を迎え、島根県における環境保全の取り組みや環境教育についての視察研修を行いました（11 月）。

中国現地調査では、農村部の貧困克服と生態移民に関する調査、農村の環境保全に関する調査などを実施しました。

今後、本研究所では、学内外からより多くの多様な分野の研究者とともに、一層高水準の研究を進めていきたいと考えています。関心のある方のご参加を心より歓迎いたします。また、皆様のますますのご支援をお願い申し上げます。

2017 年 3 月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
日本側所長 伊藤勝久

# I 学術研究の交流

## I - 1 第14回日中国際学術セミナーの開催

2016年10月15日（土）～16日（日）、島根大学において第14回日中国際学術セミナーを開催した。今年度は全体テーマを「グローバル背景下における持続可能な農山村構築～社会システム、教育・文化、技術革新、環境対策、自然災害対策～」とし、基調講演2本、一般講演3本、分科会発表34本、計39本の学術発表が行われた。中国からは、寧夏大学、西北農林科技大学、西南大学から18名が参加した。

基調講演は、研究所中国側所長である寧夏大学の周震教授による「プロジェクト理論に基づく外国語習得コースの国際化モデルに関する研究」、及び島根大学の山岸主門准教授による「大学開放事業から生まれた生産者と消費者の交わり・つながり」の2本で、分野は大きく異なるが、いずれも大学と地域・民間機関との関わりの重要性に触れられており、現在地域の中で大学が置かれている立場、大学が果たすべき役割について考えさせられる内容だった。

分科会では、本研究所の強みである農林経済、農業生産、貧困扶助、環境保全等の分野に加え、都市計画、汚水処理、太陽光発電、言語文化、教育学等様々な分野の発表が行われ、本研究所が担うプラットフォームとしての役割が象徴されたものとなった。また、島根県のJICA草の根事業で中心に取り組みされた林秀樹氏（島根県技術士会会長）からもご講演いただいた。

本セミナーを通して、普段なかなか会う機会のない研究者同士が対面して交流を行うことにより、本研究所を中心とした研究者同士のつながりを更に強めることができ、今後の共同研究の新たな展開についても見通す機会になったと感じている。



## 第14回日中国際学術セミナースケジュール

10月15日(土) 午前 会場：島根大学生物資源科学部1号館 203号室

9:00-9:30 開会式

島根大学理事 秋重 幸邦 挨拶

島根大学副学長 出口 顕 挨拶

寧夏大学・島根大学国際共同研究所 中国側所長 周 震 挨拶

趣旨説明 (島根大学・寧夏大学国際共同研究所 日本側所長 伊藤 勝久)

9:30-10:30 中国側基調講演 (周 震 寧夏大学・島根大学国際共同研究所)

10:30-11:00 一般講演 (保母 武彦 島根大学・寧夏大学国際共同研究所)

11:00-11:30 一般講演 (李 世平 西北農林科技大学)

11:30-12:00 一般講演 (田 阡 西南大学)

12:00-13:30 昼食

10月15日(土) 午後 会場：島根大学生物資源科学部1号館 101・203号室

	分科会① 203号室 座長：陳 曉楠		分科会② 101号室 座長：上園 昌武	
1330 - 1400	小菅良豪	島根大学生物資源科学部	上園昌武	島根大学法文学部
1400 - 1430	陳曉楠	西北農林科技大学経済管理学院	寧鴻斌	銀川寧大城市規画設計研究院
1430 - 1500	高田晋史	島根大学生物資源科学部	王淑巧	銀川寧大城市規画設計研究院
1500 - 1530	何得桂	西北農林科技大学人文社会發展学院	周榆涵	島根大学生物資源科学部
1530 - 1600	野田哲夫	島根大学法文学部	羅偉峰	銀川寧大城市規画設計研究院
1600 - 1630	吳奮	島根大学法文学部	伊藤勝久	島根大学生物資源科学部
1630 - 1700	足立文彦	島根大学生物資源科学部	毛巧芝	西南大学資源環境学院

10月16日(日) 会場：島根大学生物資源科学部1号館 101・203号室

	分科会③ 101号室 座長:党 紅敏(午前) 米 康充(午後)		分科会④ 203号室 座長:谷口 憲治(午前) 松本 一郎(午後)	
1000 - 1030	党紅敏	西北農林科技大学經濟管理学院	松本敏一	島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター
1030 - 1100	胡定国	銀川寧大城市規画設計研究院	閻振宇	西北農林科技大学經濟管理学院
1100 - 1130	万仲武	寧夏靈武市大泉林場	谷口憲治	就実大学経営学部
1130 - 1200	李栄霞	銀川寧大城市規画設計研究院	藏志勇	寧夏大学・島根大学国際共同研究所
1200 - 1330	昼食			
1330 - 1400	嚴玉潔	寧夏大学土木水利工程学院	仲野寛	島根大学生涯教育推進センター
1400 - 1430	賀婧	寧夏大学資源環境学院	田中奈緒美	島根大学・寧夏大学国際共同研究所
1430 - 1500	水野斎	島根大学総合理工学部	林秀樹	島根県国際協力事業アドバイザー
1500 - 1530	鈴木美成	島根大学生物資源科学部	李婉	島根大学教育学部
1530 - 1600	趙金龍	島根大学生物資源科学部	璩向寧	寧夏大学西北土地退化及び生態回復国家重点實驗室育成基地
1600 - 1630	鐘艷霞	寧夏大学西北土地退化及び生態回復国家重点實驗室育成基地	松本一郎	島根大学教育学部
1630 - 1700			松崎貴	島根大学地域未来戦略センター
1700 - 1730	全体討論 (於:101号室) 司会:伊藤勝久・周震			

10月15日(土)の講演プログラム/報告題目

【会場：島根大学生物資源科学部1号館 203号室】

中国側基調講演/中方主題報告 (9:30 - 10:30)

Project - based Foreign Language Training Programme : Toward an Effective Communication Strategy / 基于项目理论的外语培训国际化模式策略研究

○周 震 (寧夏大学・島根大学国際共同研究所 中国側所長)

一般講演/個別報告

10:30 - 11:00

日本で進む「農村合理化政策」と農村再生の動き / 日本的“农村合理化政策”与农村重生的动向

○保母武彦 (島根大学・寧夏大学国際共同研究所)



11:00 - 11:30

中国における土地利用による生態効率及びその影響要素に関する研究－各省のパネルデータに基づく実証分析 / 中国土地利用生态效率及其影响因素研究－基于分省面板数据的实证分析

○李世平（西北農林科技大学經濟管理学院）

11:30 - 12:00

村落から流域へ－地域研究の新しい思路 / 从村落到流域－区域研究的新思路

○田阡（西南大学歴史文化学院）

**【第一分科会：島根大学生物資源科学部 1号館 203号室】**

13:30 - 14:00

内モンゴル自治区におけるトナカイエベッキ人の生活変化 / 内蒙古自治区所辖鄂温克人的生活变化

○小菅良豪<sup>1</sup>，ハリナ<sup>2</sup>（1 島根大学特別協力研究員，2 元島根県立大学大学院）

14:00 - 14:30

中国西部農村地域における産業貧困扶助モデルの改革に関する研究－陝西省を例として / 中国西部农村地区产业扶贫模式创新研究－以陕西省为例

○陳曉楠，余勁，閻振宇（西北農林科技大学經濟管理学院）

14:30 - 15:00

山村地域の災害復興におけるコミュニティビジネスの役割に関する研究－四川省綿陽市北川チャン族自治県石椅村を事例にして－ / 关于社区商业在山村地区的灾后重建中的作用的考察－以四川省绵阳市北川羌族自治县石椅村为例－

○高田晋史（島根大学生物資源科学部 助教）

15:00 - 15:30

特別貧困集中地域における災害避難移民政策の執行偏差及びその影響について－陝西省南部地域における調査に基づく分析 / 集中连片特困地区避灾移民搬迁政策执行偏差及其影响－基于陕南地区的调查与分析

○何得桂（西北農林科技大学人文社会發展学院）

15:30 - 16:00

島根県の IT 産業振興政策とその効果についての研究－オープンソースを活用した地域 IT 産業振興策とイノベーション効果－ / 关于岛根县的 IT 产业振兴政策及其效果的研究－有效运用开放源代码的地域 IT 产业振兴政策和创新效果－

○野田哲夫（島根大学法文学部）

16:00 - 16:30

スマートフォン市場におけるプラットフォーム戦略と新興 OS の展開 / 在智能手机市场上的平台战略和新兴 OS 的展开

○呉奮（島根大学大学院人文社会科学研究科）

16:30 - 17:00

島根県中標高地域のサツマイモの高糖度化の要因 / 导致岛根县中海拔地区的番薯含糖量高的因素研究

○足立文彦, 桐村史悠 (島根大学生物資源科学部)

**【第二分科会：島根大学生物資源科学部 1号館 101号室】**

13:30 - 14:00

エネルギー自立地域づくりと地域経済効果 / 能源自立地域的创造和地域经济的效益

○上園昌武 (島根大学法文学部)

14:00 - 14:30

多規合一に基づく村づくりに関する研究 / 基于多规合一的村镇规划研究

○寧鴻斌 (銀川寧大城市規画設計研究院)

14:30 - 15:00

Analysis of Characteristics of Ladysmith Residential Planning / Ladysmith 住区规划特征分析

○王淑巧<sup>1</sup> 王德全<sup>2,3</sup> 王書偉<sup>4</sup> (1. 銀川寧大城市規画設計研究院 2. 寧夏大学, 3. 寧夏節水灌溉与水資源調整工程技術研究センター, 4. Duncan Christian School)

15:00 - 15:30

活力ある地域組織における要因探求 - ソーシャル・キャピタルのもとに考察する - / 在有活力的地区组织中就其活力源泉的探究 - 基于社会资本的视点考察 -

○周榆涵<sup>1</sup> 伊藤勝久<sup>2</sup> (1 島根大学生物資源科学研究科 2 島根大学生物資源科学部、島根大学・寧夏大学国際共同研究所)

15:30 - 16:00

The Integrated Approach of Mountain Village Planning and Landscape Design - as an example Liu Pan mountain village / 山地村庄规划与景观设计的统筹方法 - 以六盘山区村庄规划为例

○羅偉峰<sup>1</sup> 王德全<sup>2</sup> 李榮俠<sup>1</sup> 丁凱<sup>3</sup> (1. 銀川寧大城市規画設計研究院, 2. 寧夏大学, 3. 寧夏祥河生態環境工程研究院)

16:00 - 16:30

中山間地域における林業を中心とした産業振興の政策構想 / 中山间地区以林业为中心的产业振兴政策的构想

○伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部、島根大学・寧夏大学国際共同研究所)

16:30 - 17:00

生物質炭の添加方式の違いによる天竺桂の幼苗の生態学反応の差 / 天竺桂幼苗对不同生物质炭添加方式的生态学响应

○毛巧芝\*, 田阡, 何丙輝, 劉芸 (\*西南大学資源環境学院)

10月16日(日)の講演プログラム/報告題目

【会場：島根大学生物資源科学部1号館 203号室】

日本側基調講演/日方主題報告 (9:00 - 10:00)

大学開放事業から生まれた生産者と消費者の交わり・つながり / 大学開放項目产生的生产者和消费者的交流与关联

○山岸主門・井上憲一・巢山弘介(島根大学生物資源科学部)

【第三分科会：島根大学生物資源科学部1号館101号室】

10:00 - 10:30

鳥インフルエンザ状況下における産卵鶏大規模養殖農家の生産脆弱性に対する評価 / 禽流感疫情下蛋鸡规模养殖户生产脆弱性评价

○党紅敏(西北農林科技大学經濟管理学院)

10:30 - 11:00

Introduce of Ningxia rural environment comprehensive improvement / 宁夏农村环境综合整治介绍

○胡定国(銀川寧大城市規画設計研究院)

11:00 - 11:30

Study on relationship between phenological period and air temperature, soil temperature of Zizyphus jujube Mill cv. Lingwuchangzao / 灵武长枣物候期与气温、地温的关系初探

○万仲武(寧夏靈武市大泉林場)

11:30 - 12:00

Comparison and selection for rural household sewage treatment technique in arid area / 干旱区农村户用生活污水处理技术比选

○李榮侠<sup>1</sup> 王德全<sup>2,3</sup> 嚴玉潔<sup>2,3</sup> (1. 銀川寧大城市規画設計研究院, 2. 寧夏大学土木与水利工程学院, 3. 寧夏節水灌溉与水資源調整工程技術研究センター)

13:30 - 14:00

Rural livestock and poultry breeding wastewater treatment technology research in arid regions / 干旱地区农村畜禽养殖污水处理技术研究

○嚴玉潔<sup>1,2</sup>, 王德全<sup>1,2</sup>, 丁凱<sup>3</sup> (1. 寧夏大学土木与水利工程学院, 2. 寧夏節水灌溉与水資源調整工程技術研究センター, 3. 寧夏祥河生態環境工程研究院)

14:00 - 14:30

Studying on the Characteristics of the Number of Microorganisms and Contaminant Concentration in Sewage of Rural Domestic Sewage Disposal System of Yinchuan City, Ningxia in Northwestern Chinese / 宁夏典型农村生活污水处理系统污水微生物数量

和汚染物特征研究

○賀 婧（寧夏大学資源環境学院）

14:30 - 15:00

亜鉛フタロシアニン塗布膜太陽電池の光電変換特性 / 酞菁鉛膜太阳能电池的光电转化特性

○水野斎，筒井猛壯，赤松和也，廣光一郎（島根大学総合理工学部）

15:00 - 15:30

微量元素の網羅的解析と多変量解析を併用した大気由来の汚染物質の起源解明 / 使用微量元素の全面分析以及多变量分析的方法来解释大气中的污染物质的来源

○鈴木美成（島根大学生物資源科学部）

15:30 - 16:00

Detection of Vegetation Change using Landsat-MODIS fusion in Grain for Green Project Area, Ningxia, China / 利用 Landsat-MODIS 融合模型监测中国宁夏退耕还林地区植被变化

○趙金龍<sup>1</sup> 米康充<sup>2</sup>（<sup>1</sup> 島根大学生物資源科学研究科 <sup>2</sup> 島根大学生物資源科学部）

16:00 - 16:30

寧夏南山区彭陽県における生態系健康評価 / 宁南山区彭阳县生态系统健康评估

○鐘艶霞<sup>1,2</sup>，曹園園<sup>1</sup>，劉文輝<sup>1</sup>（<sup>1</sup> 寧夏大学西北土地退化及び生態回復国家重点實驗室育成基地，<sup>2</sup> 寧夏大学科学技術処）

#### 【第四分科会：島根大学生物資源科学部 1 号館 203 号室】

10:00 - 10:30

島根県および島根大学における農林水産業の六次産業化の取り組み / 关于岛根县以及岛根大学开展的农林水产业的六次产业化

○松本敏一（島根大学農林水産業の六次産業化プロジェクトセンター）

10:30 - 11:00

六次産業から見た農産物購買合作社改革に関する研究 - 陝西省の合作社を例として / 六次产业视阈下供销合作社转型路径研究 - 以陕西省供销总社为例

○閻振宇 陳曉楠 芮雪霏（西北農林科技大学經濟管理学院）

11:00 - 11:30

グローバル社会における日本の農企業経営の形成要因 - 条件不利地域・島根県における農業の六次産業化を中心に - / 全球化社会中日式的农业企业的形成因素研究 - 以条件不利地区・島根县的六次农业产业化为中心 -

○谷口憲治（就実大学経営学部）

11:30 - 12:00

中国における有機農業の発展現状 - 山西省の事例を中心に / 中国有机农业的发展现状 - 以山西省灵丘县为例

○蔵志勇（寧夏大学・島根大学国際共同研究所）

13:30 - 14:00

地域社会の要請や市民のニーズに応える学習機会提供による大学の社会貢献について / 解決地域社会及市民所需为其提供学习机会 - 关于高校的社会贡献

○仲野寛（島根大学生涯教育推進センター）

14:00 - 14:30

日本語接触場面におけるミスコミュニケーションに関するケーススタディ - 中国人学習者はどのように会話に参加するのか - / 关于日语对话中出现交流偏差的实例分析 - 中国日语学习者将如何参与日语对话 -

○田中奈緒美（島根大学・寧夏大学国際共同研究所）

14:30 - 15:00

寧夏回族自治区の水環境改善-草の根JICAプロジェクト取組の中から見えた課題と展望- / 宁夏回族自治区的水环境改善问题-JICA 草之根项目执行中的课题与展望-

○林秀樹（草の根 JICA プロジェクトマネジャー）

15:00 - 15:30

環境意識の日中比較 - 日中共同のアンケート調査結果から - / 中日共同研究调查问卷结果分析 - 中日环境意识对比

○李婉<sup>1</sup>、松本一郎<sup>2</sup>、山岸主門<sup>3</sup>、伊藤勝久<sup>3</sup>（<sup>1</sup> 島根大学大学院教育学研究科/島根大学国際交流センター、<sup>2</sup> 島根大学大学院教育学研究科、<sup>3</sup> 島根大学生物資源科学部）

15:30 - 16:00

寧夏南山区の彭陽県における住民生態と環境感知状況及び影響要素についての分析 / 宁南山区彭阳县居民生态和环境感知状况及其影响因素

○璩向寧 曹園園 衛萍萍 劉文輝（寧夏大学西北土地退化及び生態回復の国家重点実験室育成基地）

16:00 - 16:30

日本における小・中学校での環境教育の現状と課題 / 日本中・小学校的环境教育现状和课题

○松本一郎（島根大学大学院教育学研究科）

16:30 - 17:00

島根大学における地域貢献人材の育成 / 島根大学地域人才培养

○松崎 貴（島根大学地域未来戦略センター）

## I - 2 東北アジア少数民族文化教育セミナーの開催

自治区教育厅の資金を獲得し、テーマを少数民族に絞ったセミナーを開催した。目的は、中国・日本・韓国における少数民族（特にイスラム教民族）の状況を報告し合い、各国におけるイスラム教徒の現状について討論することである。日本からは、日本ムスリム協会徳増公明会長、早稲田大学店田広文教授、東京ジャーミー下山茂広報を招待し、ご発表いただいた。

○スケジュール

日 時		場 所	内 容	
11/6	09:00-17:00	寧夏大学 国際共同研究所棟 1階ホール	参加者受付、資料配付	
11/21	09:00-09:05	寧夏大学 国際共同研究所棟 4階報告庁	開幕式 通訳： 田中	司会：周 震 来賓紹介
	09:05-09:15			寧夏大学副学長許興あいさつ
	09:15-09:25			寧夏社会科学界連合会 呉勇副主席あいさつ
	09:25-09:50			記念撮影
	09:50-10:00			休憩
	10:00-12:00			報 告 司会：藏志勇 報告者：徳増公明、張前進、店田広文 通訳：于虹、崔沫舒、李楊
	12:30-13:45	寧夏大学国際交流セ ンター2階レストラン	昼 食	
	14:30-15:50	寧夏大学 国際共同研究所棟 4階報告庁	報 告 司会：藏志勇 報告者：谷口憲治、胡躍高 通訳：于虹、田中奈緒美	報 告
	15:50-16:00			休 憩
	16:00-17:20			報 告 司会：藏志勇 報告者：金英花、王鋒 通訳：張玲、藏志勇
17:20-17:35	総 括 司会：周 震 通訳：田中奈緒美 総括：藏志勇			

○報告テーマ

時 間	報告者	所 属	報告テーマ
10:00-10:40	徳増公明	日本イスラム教協会	日本のイスラム教事情とムスリムの紹介
10:40-11:20	張前進	寧夏大学中国アラビ ア国家研究院	国家の中ア戦略に応じた国際複合型アラビア語人材の育成

11:20-12:00	店田広文	早稲田大学	日本のイスラム教-在日ムスリムの現状と課題
14:30-15:10	下山茂	東京ジャーミー	東京ジャーミーの歴史と日本のムスリムの現状と課題
16:00-16:40	金英花	寧夏大学外国語学院	韓国のイスラム文化の歴史と現状
16:40-17:20	王鋒	寧夏大学・島根大学国際共同研究所	「一带一路」背景下の西北地域のムスリムコミュニティの現状に関する調査研究

### I - 3 六次産業経済発展研究会の開催

上記と同様、自治区教育庁の資金を獲得し、六次産業化に関する研究会を開催した。中国側は中国農業大学の胡躍高教授、日本側は島根大学の谷口憲治名誉教授（現・就実大学教授）にご発表いただいた。

#### ○全体スケジュール

日 時		場 所	内 容	
11/20	09:00-17:00	寧夏大学 国際共同研究所棟 1階ホール	参加者受付、資料配付	
11/21	09:00-09:05	寧夏大学 国際共同研究所棟 4階報告庁	開幕式 通訳： 田中	司会：周 震 来賓紹介
	09:05-09:15			寧夏大学科技处处長 李建設あいさつ
	09:15-09:25			記念撮影
	09:25-09:30			休憩
	09:30-11:30		報 告 司会：藏志勇 報告者：谷口憲治、胡躍高 通訳：崔沫舒	
	11:30-11:45		質 疑 司会：藏志勇 通訳：崔沫舒	
	11:45-11:50		総 括 司会：周 震 通訳：崔沫舒 総括：藏志勇	
12:00-13:45	寧夏大学国際交流センター2階レストラン	昼 食		

○報告テーマ

時 間	報告者	所 属	報告テーマ
09:30-10:30	谷口憲治	就実大学	日本における六次産業化の種類とその影響要素
10:30-11:30	胡躍高	中国農業大学	最近の経済情勢に対する認識と六次産業化の位置づけ



## Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

### Ⅱ - 1 第14回セミナー後の日本における農村調査

日中セミナー終了後の2016年10月17日、中国からの参加者向けに島根県内でエクスカーションを実施した。雲南市榎之屋地区、同市内食の杜、飯南町谷集落を訪問し、日本の中山間地域における農業・地域活性の自主組織づくりや、生活の相互扶助システム等について視察、調査を行った。参加者からは、日中における農業経営方法の違いや、神社を中心として残る日本の祭りの伝承状況等について、多くの質問・感想が寄せられた。

○調査写真



### Ⅱ - 2 5月の陝西省現地調査の実施

2016年5月28日～6月2日、西北農林科技大学 余勁教授のプロジェクト『生態移民と農村における環境問題』により、陝西省楊凌区の西北農林科技大学、陝西省内の生態移民の移民村において、生態移民前後の生活状況の変化、新たな産業の構築、生態環境の保全効果などを調査した。

生態移民による農民の生活は農業から都市近郊での打工などに変わり、生活水準は上がったが、支出も増加している。元の農村では移転した農家の農地を流動化・集積し効率的農業を志向している。

2つの合作社を訪問したがその背景は異なっている。楊凌旺豊園果蔬專業合作社では、鎮政府が土地を集積したことが契機で果実、蔬菜類を温室栽培し、また観光農園も行っている。従業員として元の農地を請負っていた農民を雇い入れている。販売は順調に伸び、利潤は農民サービスに還元している。洋県朱鵠湖果業專業合作社では、朱鵠の生息地であった元の村から環境保全のために移民してきたもので、それを契機に立ち上げた。元の村の農民と移転先周辺の農民が社員になっている。水稻（有機紅米、綠米、黒米）、菜種油、黄金梨などを生産し、有機米は認証を受けており、市場で高価格で販売される。省の安全食品の、また全国の綠色食品のモデル合作社である。販売も伸び、利潤は農民の技術教育や福祉に還元されている。環境保全的農業が利益に繋がる好例である。

○参加者

伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授・共同研究所所長）、松本一郎（島根大学教育学部教授）、山岸主門（島根大学生物資源科学部准教授）、関耕平（島根大学法文学部准教授・共同研究所副所長）、田中奈緒美（共同研究所研究員）

○全体日程表

		伊藤勝久	松本一郎	山岸主門	関耕平	田中奈緒美
5月27日	金	松江→出雲1140(JAC3350)→1250福岡 1600(CZ334)→1835広州2050(CZ3215)→2320西安 西安泊				GS7608 2210銀川 -2330西安 西安泊
5月28日	土	西北農林科技大学打合せ（楊凌泊）				
5月29日	日	漢中市 農村調査（漢中泊）				
5月30日	月	"				
5月31日	火	"（楊凌泊）				
6月1日	水	調査予備日（西安泊）				
6月2日	木	西安0810(CZ6615)→1020上海1415(CZ8435)→ 1645福岡→新幹線・やくも→松江				MU2371 0730西安 -0850銀川

○スケジュール

5月28日（土） 西北農林科技大学にて打合せ等（楊凌泊）

8：30～ 西北農林科技大学（陝西省楊凌区）へ移動

9：30～10：30 外国語学院にて留学説明会

10：30～12：00 構内視察

14：30～17：30 經濟管理学院にて研究打合わせ

相手側参加者：余勁 經濟管理学院 教授

陳曉楠 經濟管理学院 副教授

閻振宇 經濟管理学院 博士

何得桂 人文社会發展学院 副教授

※うち 16：00～16：30 經濟管理学院表敬訪問

面会者：趙敏娟 經濟管理学院 学院長

喬文軍 国際合作交流処 副処長

李世平 経済管理学院 教授

5月29日(日) 楊陵区五泉鎮視察(楊凌泊) 案内役: 高輝 五泉鎮人民政府 副鎮長

9:00~ 五泉鎮經濟移民居住区視察(張富強さん宅訪問)

10:00~ 楊凌旺豐園果蔬專業合作社視察

対応者: 張宏利 社長

11:30~ 五泉鎮斜上村視察

対応者: 任讓席 村書記

15:00~18:00 楊凌現代農業示範園 視察

5月30日(月) 移動日(漢中泊) 漢中へ向けて移動

15:00~18:00 漢中市郊外農地・環境状況視察

5月31日(火) 漢中市洋県視察(西安泊)

9:00~12:00 洋県朱鷺湖果業專業合作社視察

対応者: 劉焜華 總經理 他3名

14:00~15:30 洋県草ba(土偏に貝)村農家視察(牟玲彦さん宅訪問)

15:30~20:00 西安に向けて移動

6月1日(水) 西北農林科技大学において研究会(西安泊)

西北農林科技側対応者: 余勁 経済管理学院 教授(国際合作交流処処長)

石穎賢 国際合作交流処 副処長

李世平 経済管理学院 教授

### ○調査写真

5/28 外国語学院での留学説明会の様子



5/28 余勁教授らとの研究打ち合わせ



5/29 楊凌旺豐園果蔬專業合作社視察



5/30 漢中市農地視察



5/31 洋県朱鷺湖專業合作社視察



5/31 朱鷺湖專業合作社の有機生産物の展示



## II - 3 9月の寧夏現地調査の実施

2016年9月12～15日、西北農林科技大学 余勁教授のプロジェクト『生態移民と農村における環境問題』により、5月に引き続き寧夏回族自治区の生態移民の状況を現地調査した。調査は銀川市閩寧鎮、中寧市紅寺堡、中衛市などの移転後の生態移民村である。生態移民前後の生活状況の変化などを中心に調査した。

銀川市閩寧鎮は福建省と寧夏自治区の協力による大規模移民村である。ここでは90年代初めから移民政策が始まり6万人の移民村になっている。多くは南部山区の貧困地区からの移民で、主に都市周辺の商工業に従事している。鎮政府は個人能力の開発による地域活性化を目指している。

中寧市紅寺堡は2000年頃から始まった移民村で、荒地を開発して豊かな耕地にしてきた。現在も周辺地域、南部山区からの移民があるが、移転後の生活は都市周辺ではないので商工業への従事が限られている。高齢者には土地も必要。

中衛市宣和鎮興海村は海原県の貧困地区からの移民で、土地は流転により配分されたが、貧困状態から脱していない。移民後出稼ぎに従事する者も多く、世帯の3分の1強が常住していない。

中衛市常楽鎮は海原県からの移民村が3つある。集中移民村、分散移民村（既存の村に移民が転入）の形態がある。地元には産業がなく移民後も労務輸出（出稼ぎ）に出る者が多い。農地は黄河の灌漑が可能で農業での発展可能性がある。

### ○参加者

伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授・共同研究所所長）、陳曉楠（西北農林科技大学経済管理学院副教授）、田中奈緒美（共同研究所研究員）

### ○スケジュール

9月10日（土）移動日 松江⇒関西空港 JR

関西空港⇒北京空港⇒銀川空港

（銀川市 寧夏大学国際交流センター泊）

9月11日（日）10時～12時 研究所運営会議 伊藤、田中、周、蔵

14時～16時 共同研究打合せ 伊藤、田中、周、蔵

(銀川市 寧夏大学国際交流センター泊)

9月12日(月) 10時～12時 研究所業務の打合せ 伊藤、田中、周、蔵  
14時～16時 共同研究打合せ 伊藤、田中、陳(西北農林科技大)  
移動 銀川⇒紅寺堡(借上車)

(紅寺堡 利来伯爵賓館泊)

9月13日(火) 9時～12時 紅寺堡における生態移民の調査  
14時～15時 中寧市における地域産業調査  
対応者: 中寧市御卒坊健康食品(石さん)  
16時～17時 中衛市(宣和鎮興海村)における生態移民の調査  
対応者: 中衛市宣和鎮政府(張さん)、

中衛市宣和鎮興海村(馬書記)、宣和鎮興海村住民(包さん)

(中衛市 中衛賓館泊)

9月14日(水) 9時～12時 中衛市(常楽鎮)における生態移民の調査  
対応者: 中衛市常楽鎮政府(李さん)、中衛市常楽鎮劉營村分散移民(宋さん)、  
常楽鎮上河沿炭坑地区住民(韓さん)、常楽鎮上游村四隊住民(李さん)  
14時～16時 現地調査に関する意見交換

(中衛市 中衛賓館泊)

9月15日(木) 移動 中衛市⇒銀川空港(借上車)  
使用機故障のため、23時まで空港 移動 銀川⇒北京(16日2時頃着)

(北京市 21世紀飯店泊)

9月16日(金) 11時～13時 日本大使館 横井参事官と面談(21世紀飯店内)  
伊藤、関、横井

移動 北京⇒関西空港(20時頃着)

○調査写真

9/13 移住跡地での放牧(紅寺堡)



9/13 移住後廃墟となった村(紅寺堡)





## Ⅱ - 4 図書『中国農村における持続可能な地域づくりー中国西部学術ネットワークからの報告ー』（編集 島根大学・寧夏大学国際共同研究所）の出版

現在、島根大学・寧夏大学国際共同研究所は中国西部学術ネットワークを形成しており、寧夏回族自治区のみならず、研究対象範囲を中国西部地域へと拡張し、人文社会科学、自然科学分野について、日中研究者の連携による学際的研究を推進している。

2008年4月に、『中国農村の貧困克服と環境再生ー寧夏回族自治区からの報告』（保母武彦（現 国際共同研究所顧問）・陳育寧（元 寧夏大学書記）編）を出版した。その後2009ー2016年にかけて、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業、JICAによる日中国際学術セミナー支援、科研費、島根大学戦略的機能強化経費などにより、多面的な共同研究が継続して行われてきた。現在、島根大学執行部から求められている「島根大学・寧夏大学国際共同研究所の既往の成果総括と今後の運営方針の検討」への応答も目的として2016年度に、過去8年間において日中国際学術セミナーでの講演および日中共同研究成果として報告されたものから、島根大学・寧夏大学国際共同研究所が選定し、図書として出版することとなった。

本書には、人文社会科学分野、自然科学分野および複合領域について、延べ40名の著者による計15編の学術論文が収録されている。中国語による論文6編は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所によって日本語に翻訳した。最近、鋭意取り組んでいる環境教育、有機農業については未収録であり、自然科学分野（自然災害科学、都市工学、水利工学、電子情報科学）を一層拡張したものを次号では出版したいと考えている。本書は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所の既往の研究活動とりまとめを出版の第一義的目的としている。島根大学執行部に一読いただき、批評をいただきたい。

## Ⅱ - 5 研究費の獲得

○研究課題：「四川省蒲江県長秋郷柑橘特色有機農業発展計画に関する調査研究」、同研究会（研究代表者：保母武彦）、研究委託元：北京嘉博文公司、2017年度（単年度）、1,200万

円。

概要：世界の柑橘生産量において中国は第1位、四川省は省別で第6位にある。四川省蒲江県は、新たに国の柑橘有機生産のモデル拠点に指定された。蒲江県内の長秋郷における有機栽培推進に関する調査研究である。調査研究分野は、日本有機農業の発展経験を踏まえ、長秋郷の実情に合わせて、農薬・肥料・生産技術等含む栽培規範と果実基準、農民組織のあり方、販売・流通を含む事業展開方式等。従事した研究者は日中両国の専門研究者9名。

#### ○科研費

- ・関耕平「人形峠ウラン残土問題の実証研究：放射性廃棄物をめぐる地域紛争の検証」若手研究B、2016～18年度、208万円、研究代表
- ・関耕平「ネクサス構造に着目した地域環境ガバナンスの包括的研究」基盤研究B（研究代表：八木信一・九州大学准教授）、2016～18年度、70万円（2016年度分）、研究分担者
- ・関耕平「産業連関モデルを用いた原子力発電所立地自治体の経済・財政構造分析」基盤研究C（研究代表：三好ゆう・福知山公立大学准教授）、2016～18年度、70万円（2016年度分）、研究分担者
- ・伊藤勝久「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント＝モデルの構築」基盤研究A（研究代表：堤研二・大阪大学教授）、2016年度、30万円

## II - 6 著書・論文等

### ○伊藤勝久（島根大学生物資源科学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長）

#### 【著書】

伊藤勝久・栗畑恭介・王 広金・王 鉄億・王 国慶・董 小煥・曹 志涛、第1章 中国寧夏農村の社会関係資本(Social Capital)賦存状況の地域差とその変容に関する考察—寧夏都市近郊農村と南部山区農村との比較から—、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017年3月（印刷中）

栗畑恭介・伊藤勝久、第3章 出稼ぎ山村における住民活動と農業の変容—寧夏南部山区彭陽県を事例に—、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017年3月（印刷中）

#### 【論文】

小菅良豪・米康充・伊藤勝久、森林経営計画制度における計画策定の進捗条件—素材生産業者の参入の意義と可能性—、林業経済研究 62(2)、pp11-22、2016.7（査読有）

#### 【口頭報告】

Katsuhisa Ito, Ayaka Morisaka, Possibility of the Communal Joint Management of Farmland and forest by Community people, The 13th Workshop on Social Capital

and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside, 17th-19nd June, 2016, Kiruna, Sweden

伊藤勝久・森坂英加、農業継続を動機とした森林管理の方法—農業法人による農地・森林の一体的管理の事例から—。林業経済学会 2016 年秋季大会、2016.11.12-13、島根大学

周榆涵・伊藤勝久、活力ある地域組織における要因探求 —ソーシャル・キャピタルをもとにした考察—。第 14 回日中国際学術セミナー、2017.10.15-16、島根大学

伊藤勝久、中山間地域における林業を中心とした産業振興の政策構想。第 14 回日中国際学術セミナー、2017.10.15-16、島根大学

李婉・松本一郎・山岸主門・伊藤勝久、環境意識の日中比較 —日中共同のアンケート調査結果から—。第 14 回日中国際学術セミナー、2017.10.15-16、島根大学

## ○一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）

### 【著書】

一戸俊義・徐 曉鋒・宋 乃平・楊 雨鑫・陳 玉林. 2017. 第 13 章 封山禁牧政策下での灘羊栄養特性 —寧夏塩池県での舎飼い飼養灘羊の調査事例—。島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017 年 3 月（印刷中）

### 【論文】

宋 相憲・金 多慧・崔 基春・一戸俊義. 2016. めん羊の前駆脂肪細胞発達に及ぼす粗飼料の給与ならびに飼育期間の影響. 日本緬羊研究会誌 53:7-12.

### 【口頭報告】

Nobuyuki Kobayashi, Fujiang Hou, Atsushi Tsunekawa, Toshiyoshi Ichinohe, Tianhai Yan and Xianjiang Chen, 2016. Effect of alfalfa hay feeding on energy utilization of Simmental beef cattle kept in Gansu province, China. The 12th International Conference on Dryland Development. 21–24 August, Alexandria, Egypt.

Toshiyoshi Ichinohe, Atsushi Tsunekawa, Tianhai Yan, Xianjiang Chen, Fujiang Hou and Nobuyuki Kobayashi, 2016. Effect of alfalfa hay feeding on nitrogen utilization of Simmental beef cattle kept in Gansu province, China. The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress. 22–25 August, Fukuoka, Japan.

Kei Matsuno, Takuya Matsumoto, Toshiyoshi Ichinohe and Sang-Houn Song, 2016. Effect of chemerin to proliferation and fat accumulation on sheep stromal vascular cell. The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress. 22–25 August, Fukuoka, Japan.

Takuya Matsumoto, Kei Matsuno, Toshiyoshi Ichinohe and Sang-Houn Song, 2016. Myogenic differentiation of ovine stromal vascular cells. The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress. 22–25 August, Fukuoka, Japan.



Sang-Houn Song, Da-Hye Kim, Ki-Choon Choi, Takuya Matsumoto, Kei Matsuno and Toshiyoshi Ichinohe, 2016. Effects of different forage and growth stage on adipogenesis of ovine preadipocytes. The 17th Asian-Australasian Association of Animal Production Societies Animal Science Congress. 22–25 August, Fukuoka, Japan.

**○関耕平（島根大学法文学部准教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）**

**【著書】**

関耕平ほか『三江線の過去・現在・未来:地域の持続可能性とローカル線の役割』山陰研究センターブックレット6、今井出版、2017年3月

**【論文】**

関耕平「被災地における復興行財政と住民参加」長谷川・保母ほか編著『岐路に立つ震災復興：地域の再生か消滅か』東大出版会、pp. 63-89、2016年

関耕平「地方大学による地域貢献と地域づくり：島根大学の事例から（特集 自治体と大学の連携：地域づくりへ広がる自治の主体形成）」『住民と自治』645号、自治体研究社、pp.30-34、2017年1月

**【口頭報告】**

Kohei Seki, Environmental and Regional Regeneration in Areas Affected by Mine Closures: A Case Study of the Ashio Copper Mine, The 13th Workshop on Social Capital and Development Trends in the Swedish and Japanese Countryside、MARG、スウェーデン・キルナ、2016年6月

関耕平「島根大学・寧夏大学国際共同研究所による課題解決型の研究交流と活動紹介」島根大学ミュージアム市民講座、2016年7月16日

関耕平「三江線の過去・現在・未来」山陰研究センター研究交流会、2017年1月25日

関耕平「しまねの地域課題と再生への展望～地域変革の主体形成を考える～」しまね地方自治研究所通常総会（於島根県民会）、2017年2月4日

関耕平「地域再生へ向けた労働組合の役割：2017年春闘を考える」2017年春闘学習集会（於プラバホール）、2017年2月17日

**【その他】**

関耕平「島根大学・寧夏大学国際共同研究所 課題解決型の研究交流：国際的産学官の連携を」山陰中央新報 2016年7月12日

**○保母武彦（島根大学名誉教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問）**

**【著書】**

長谷川公一・保母武彦・尾崎寛直編著『岐路に立つ震災復興 地域の再生か消滅か』、東京大学出版会、総頁297、2016年6月

**【論文】**

保母武彦「JR名松線（三重県）の全線復旧から学ぶこと」、『三江線の過去・現在・未来』、

島根大学山陰研究センター、2017年3月

保母武彦「荒漠化—貧困克服と環境再生」、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017年3月（印刷中）

保母武彦・末宗徹郎・金子勝・中井英雄・平岡和久「シンポジウム I 『人口減少時代の地方創生』と地方における自治体の役割」、『日本地方財政学会研究叢書』第24号所収、勁草書房、1~28、2017年2月

保母武彦「トランプ・ショックと環境・沖縄」、『環境と公害』第46巻第3号、1、2017年1月

#### 【調査報告書】

『四川省蒲江県長秋郷柑橘特色有機農業発展実施計画』（中国語）、同研究会（研究代表：保母武彦）、総頁294、2016年12月

#### 【口頭報告】

保母武彦「どうなる、どうする『地方創生』」、大東文化大学経済研究所主催、第36回経済シンポジウム、基調講演、大東文化大学、2016年12月10日

保母武彦「地方再生の新動向の特徴～「地方創生」は地方自治の分岐点～」(日本地域経済学会招待基調講演)、日本地域経済学会第28回宮崎大会、宮崎大学、2016年12月3日

保母武彦「日本で進む『農村合理化政策』と農村再生の動き」、第14回日中国際学術セミナー、島根大学、島根大学・寧夏大学国際共同研究所等主催、島根大学、2016年10月15日

保母武彦「農山村地域に焦点を当てながら『地方再生』に関わる問題について」(シンポジウム報告)、日本地方財政学会第24回大会、静岡大学、2016年5月

### ○田中奈緒美（島根大学・寧夏大学国際共同研究所研究員）

#### 【論文】

田中奈緒美「寧夏大学の学生の留学ニーズに関する調査報告」、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017年3月（印刷中）

#### 【口頭報告】

田中奈緒美「日本語接触場面におけるミスコミュニケーションに関するケーススタディー—中国人学習者はどのように会話に参加するのか—(关于日语对话中出现交流偏差的实例分析—中国日语学习者将如何参与日语对话—)」, 第14回日中国際学術セミナー, 松江, 2016年10月

田中奈緒美「日本語雑談会話における話題の関連性を示すメタ言語的表現に関する一考察」, 2016年度日本語教育学会秋季大会, 73-78, 松山, 2016年10月

○谷口憲治（就実大学経営学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【著書】

谷口憲治「日本農業産業化の特徴及其原因」、胡霞・胡躍高主編『全球村鎮建設進展』、中国農業出版社、pp.184-191、2015年12月

劉海濤・谷口憲治「農業産業化に果たす農村小金融の役割と農業園区経営方式」、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』所収、今井出版、2017年3月（印刷中）

谷口憲治「小規模農業経営体における六次産業化形成要因」、高橋信正編著『戦後日本の食料・農業・農村 第8巻 農業の六次産業化』、農林統計協会、2017年3月

【論文】

谷口憲治「地域資源活用による離島における農村経営—島根県海士町を事例に—」、『就実経営研究 第2号』、就実大学経営学部、pp.21-33、2017年3月

【口頭報告】

谷口憲治「地域の宝発見で豊かな生活」ことぶき大学（岡山市御南西公民館）2016年5月27日

谷口憲治「農業の六次産業化と岡山県の動き」吉備創生カレッジ（岡山市山陽新聞社）2016年7月9日

谷口憲治「グローバル社会における日本農企業経営の形成要因」第14回日中国際学術セミナー（松江市、島根大学）2016年10月16日

谷口憲治「日本における六次産業化の諸類型と展開要因」寧夏大学・寧夏社会科学学会北東アジアにおける六次産業持続可能な発展に関する研究会（中国寧夏回族自治区、寧夏大学）2016年11月21日

谷口憲治「日本における農業六次産業化の現状と方向」南開大学中日農業発展研究中心設立記念学術検討会（中国天津市、南開大学）2016年12月18日

谷口憲治「日本の農業・最近の農業政策について」東軟信息学院学術交流会（中国大連市、東軟信息学院）2016年12月20日

谷口憲治「集落営農組織の新展開—広域連携組織のねらいと今後のあり方を考える—」『NOSEIKEN』島根農政研究会、2017年1月

○張 忠任（島根県立大学総合政策学部教授）

陳 幼竹、張 忠任、谷垣 岳人「中国における中薬市場のあり方と問題点」、『龍谷政策学論集』第5巻第1号、pp.1-25、2016年1月

張 忠任「中国における政府間財政関係の変質と多次元展開」、『総合政策論 叢』Vol.31、pp.1-16、2016年

張忠任「書評：程恩富・胡樂明氏の『経済学方法論』」、『季刊経済理論』第53巻、2016年10月

張 忠任、陳 霽、孫 萌「貴州省の政府間財政関係に関する分析—鎮寧県を事例に—」、

『総合政策論叢』Vol.32、pp.17-36、2016年10月  
徐 博、何 彦旻、張 忠任「内モンゴルにおける郷鎮財政体制の変遷に関する分析」、  
『総合政策論叢』Vol.32、pp.37-52、2016年10月  
町田俊彦、張忠任「政府間財政関係における集権と分権の諸課題—理論と実際—」[日]東  
京、『専修大学社会科学研究所月報』No.644、pp.1-20、2017年2月

### Ⅲ 2016 年度研究所活動の記録

#### Ⅲ - 1 研究交流活動

##### Ⅲ - 1 - 1 さくらサイエンスプランによる西北農林科技大学学生の受入

島根大学では研究所メンバーが中心になり JST「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(通称「さくらサイエンスプラン」)を申請し、採択された。11月26日から12月3日の8日間、「日本の環境対策技術と環境教育」というテーマで西北農林科技大学の学生一行を受入れた。西北農林科技大学は985工程、211工程を取得した農林系の有力大学で、島根大学と協定を締結している。

##### ○日程表

	時間帯	イベント
11月26日	土	上海⇒羽田⇒米子1650⇒松江1800
	16時頃?	迎え
	19時頃	歓迎夕食(場所未定 西北農林一行10+関係者(伊藤、山岸、李婉))
11月27日	日	1030-1200 島根大学(オリエンテーション)
		昼食 はちだい丸
	午後	島根大学(特別講義)
	1330-1430	①日本の環境問題と島根大学の環境対応(仮)(中国語PPT有)山岸主門
	1445-1545	②環境対策(仮)上園昌武
	1600-1700	③もったいない(中国語PPT有)伊藤勝久
		夕食
11月28日	月	930-1030 エコクリーンまつえ(ゴミ処理場)(上講武)+松江市役所リサイクル推進課
	1030-1200	施設見学
	1200-1230	生物資源事務室⇒経理調達課 旅費の授受
		昼食 学食
	1330-1500	川向リサイクルプラザ
	1530-1630	宍道湖東部浄化センター(竹矢)
	1800	夕食
11月29日	火	午前 島根大学(特別講義)
	930-1030	④中山間地域の畜産 一戸俊義
	1030-1130	⑤日本の環境教育 李婉
		昼食 学食
	1300	大学出発
	1400-1500	雲南市役所視察 (自然通風、木質バイオマスボイラー等による環境に配慮した公共建築の視察)
	1530-1630	グリーンパワーうんなん (森林整備とバイオマス燃料生産、熱供給)
		雲南市内ホームステイ(日本の文化や生活様式を体験するため)
11月30日	水	900 民泊出発
	1000-1200	島根県民の森視察 (ガイドツアーによる自然環境の五感による理解の体験 飯南町)
	午後	昼食 頓原道の駅 やまなみレストラン
	1500-1600	久喜大林銀山遺跡視察(田所公民館で担当者と落ち合う) (自然と人の歴史的な共存・共栄の関係について学ぶ 担当:吉川 正)
	1730-1800	邑南町口羽公民館で、ホストファミリーと引き合わせ 邑南町内ホームステイ(日本の文化や生活様式を体験するため)

12月1日	木	900	民泊出発
		1000-1200	石見銀山資料館(資料館～街並み～間歩): 対応は資料館館長の仲野義文さん (大田市 世界遺産である石見銀山の坑道や街並みを見学)
		午後	昼食
		1330-1630	島根県立三瓶自然館(+埋没林) (三瓶自然館の施設見学・紹介とともに、教育・研究・普及活動の紹介を頂けます) (大田市 自然環境の特性と保全方法について展示内容と方法の解説 担当: 三瓶自然館龍副館長, 当日担当者: 矢田さん) (松本記入)
		1900-2100	夕食 (島根大学で学生交流会)
12月2日	金	1000-1130	島根県立宍道湖自然館、および宍道湖グリーンパーク: 担当はゴビウスの山口勝秀様 (出雲市 湖沼環境の特性と保全について展示内容と方法)
			昼食
		1430-1630	NPO法人自然再生センター: 窓口は小倉加代子専務理事(白湯サロン、ヨシ刈り体験) (松江市 センターの活動紹介と河川湖沼環境保全についての体験参加)
		1700-1930	打上げ 生協2食1階(秋重理事、関係者、中国人留学生)
12月3日	土	1200頃	見送り
			松江→米子1415⇒羽田

関係者	受入代表	伊藤勝久 松本一郎 一戸俊義 関 耕平 山岸主門 李婉	生物資源科学部 教授 教育学部 教授 生物資源科学部 教授 法文学部 准教授 生物資源科学部 准教授 国際交流センター特定助教 学術国際部国際交流課
	事務担当	山根康介	

## ○プロジェクトの内容

### ●オリエンテーション・環境関連講義 11/27

前日夕方に松江に到着した一行に対して、午前中は本プログラムの趣旨と視察予定などについてオリエンテーションを行い、午後は環境に関する 3 つの講義「島根大学の環境管理システムと環境教育」、「CO2 排出削減と再生可能エネルギー」、「もったいないという思想」を行った。講義により島根大学が環境教育に取り組みその体制が充実しており今回のプログラムはそのソフトウェアを活用したものであることを印象付けた。メンバーからも熱心な質問が相次ぎ、意欲のほどがうかがわれた。(写真 1)

### ●松江市内の廃棄物処理施設など 11/28

エコクリーン松江(ごみ処理場)では、大型のごみクレーンやガス化溶融炉等の見学をし、ごみ処理で生まれた熱を電気に変える仕組みや高温で溶融することによる人工砂の生成等について学んだ。川向リサイクルプラザでは家庭等から分別収集された資源ごみのリサイクルの流れを見学し、ごみの減量化の意義や環境への負荷低減の大切さを、また宍道湖東部浄化センター(下水処理場)では、家庭や工場から出る下水を、きれいにして自然にかえし、宍道湖・中海の水質改善を図っている様子を学んだ。(写真 2)

### ●環境配慮型市庁舎・バイオマスエネルギー供給会社、雲南市民泊 11/29

午前中は大学で 2 つの環境関連講義を受けた。午後からは 2 泊 3 日の中山間地域の視察が始まった。雲南市では環境に配慮した自然エネルギー利用型低エネルギー市庁舎を建設し、今後の公共建築のモデルとなっている。市庁舎を視察するとともに市役所の環境部門の仕事内容について学んだ。(写真 3) また市では森林整備を進めるとともに林業活性化の

ために未利用材バイオマス利用を促進し、それを活用したエネルギー供給会社も視察し、地域におけるエネルギー資源循環が地域経済の活性化に繋がることを学んだ。雲南市での宿泊は民泊を利用し、一般的な農家ででの生活を体験した。参加者は初めての日本家屋での生活体験を楽しんだ。(写真 4)

●森林セラピー体験、久喜銀山遺跡視察 11/30

飯南町では森林の保健休養機能を活用し森林セラピー基地を設置しており、参加者は短い時間だが、森林ガイドとともに五感を使い森林そのものに触れるという体験をおこない、森林環境の健康的活用と地域活性化について学んだ。(写真 5) 午後は邑南町の久喜銀山遺跡を視察し、環境と共生していた鉱山の仕組みと地域住民産業遺跡の保全の取り組みを経験した。(写真 6)

●邑南町民泊 11/30、石見銀山、三瓶自然館 12/1 について)

4 班に分かれて農家民泊を体験した。日本の農民・農家の生活を実感できたことから、最も印象的な研修内容としてあげる研修生が多かった。英語も中国語も分からないまま、通訳無しに宿泊した班もあり、むしろいっそうの深い交流が生まれた。

石見銀山にて石見銀山資料館館長の案内により研修を行った。ここで学んだのは、環境保全と鉱山開発が両立した稀有な事例であること、実際にそこに住民が生活している地域社会も含めて世界遺産に認定されていることなどである。つまり大森地区の地域の持続可能性が世界遺産の保全としても大きな課題になっており、それに取り組む人々の営みを学ぶことができた。

午後からは三瓶自然館サヒメルにおいて、自然を題材にした環境教育の実践基地としての役割を学んだ。児童・生徒を受け入れる上で充実した施設設備を見学するとともに、そのコンテンツと研究員の教育上の力量形成などについて学んだ。(写真 7)

帰学後、研修団一行と島根大学の学生との交流会を催した。日中学生が協力して料理を作ったことでお互いに緊張がほぐれ、英語によるコミュニケーションで打ち解けあい楽しんだ。(写真 8)

●宍道湖自然館ゴビウス、認定 NPO 自然再生センター、日中交流会 12/2

宍道湖・中海の汽水環境の特性の理解と保全の取り組みについて視察した。ゴビウスでは汽水域の魚類・鳥類の保全と観察を体験し、微妙なバランスのうえの生態系について学んだ。午後は自然再生センターで汽水域と両湖をつなぐ河川の市民参加による保全の取り組みを学び、松江市内の天神川に繁茂する水草の刈り取り体験を行った。

最終日の視察の後、島根大学との日中交流会が行われた。秋重幸邦副学長（企画・学術研究担当）からの挨拶の後、本研修の修了証が西北農林科技大学国際交流所副所長の石穎賢教授、9 名の博士・修士課程学生に手渡された（写真 9）。会食時に、本プロジェクトで得た知見について、それぞれ秋重副学長に報告が行われた（写真 10）。本プロジェクトをさらに拡張し、本学と西北農林科技大学が主体となり、中国西北部を包含した地域との学術交流の実現にむけての活発な意見交換が行われた。

写真1 オリエンテーションと講義



写真2 分別された資源ごみを視察



写真3 雲南市の環境配慮型新庁舎の見学



写真4 民泊を発つ時の集合写真



写真5 森林セラピー体験



写真6 久喜銀山の視察



写真7 三瓶自然館の視察



写真8 日中の学生交流





写真9 副学長から修了証書の授与



写真10 研修による知見の報告



### Ⅲ - 1 - 2 研究所運営に関する協議等

#### 1) 2016年9月11日 運営委員会 (寧夏大学)

(研究所日本側所長室、伊藤、田中、周震、蔵志勇)

協議内容

- ・日中セミナーの参加者、ビザの申請状況について
- ・研究所棟の部屋使用に関する申入書について
- ・日中それぞれの取り組みについて

#### 2) 2017年3月14日 運営委員会 (寧夏大学)

(研究所会議室、伊藤、一戸、田中、周震、蔵志勇)

協議内容

- ・2017年度事業計画について
- ・第15回日中セミナー (中国で開催予定)  
日程、全体テーマ、呼びかけ範囲等
- ・寧夏大学日本語科学生の日本派遣について
- ・その他情報交換 (JICA 支援、研究資金など)

### Ⅲ - 2 2016年度その他の交流記録

#### Ⅲ - 2 - 1 島根県、松江市との情報交換・連携の強化

2016年5月6日寧夏・銀川連絡会を開催し、次の内容について、情報交換を行った。

##### ○島根大学

第14回日中国際学術セミナーの開催について

5月～6月 西部学術ネットワーク 西北科技大学との環境教育について

7月 JICA 草の根技術協力事業終了後の継続事業申請について

##### ○島根県

島根県「交流の翼」事業について

寧夏大学から島根県立大学への学生受入状況について

島根県立大学学生の寧夏大学への派遣について

4月 寧夏からの訪問団について  
寧夏からの環境専門職員の派遣依頼について

○松江市

寧夏からの農業研修団について  
9月 市内農家の銀川視察について  
吉林との卓球交流（派遣）及び経済交流について

### Ⅲ - 2 - 2 銀川における元日本留学研修経験者意見交換会・交流会の開催

2017年3月15日、在中国日本国大使館との共同主催により、銀川在住の元日本留学経験者や日本人駐在員との交流会を行った。総勢70名が集まり、今後の日中友好交流について、活発な意見交換が行われた。

○概要

開催目的：日本での留学・研修経験者を中心に集まっていただき、今後の日中友好交流について関係者から意見を聴取するとともに、寧夏の日中関係者の交流を深める機会とする。

日時：2017年3月15日（水）17:30～18:30 意見交換会

18:30～20:00 交流会

場所：万達嘉華酒店 3階宴会3庁

参加者：日本留学経験者、銀川市内日本人コミュニティ関係者、寧夏自治区外字弁公室、中国学生代表、寧夏大学関係者、島根大学・寧夏大学国際共同研究所関係者、大使館・大学北京事務所関係者

○写真



### Ⅲ - 3 留学生招致に係る活動

#### Ⅲ - 3 - 1 留学説明会

今年度から留学生招致に力を入れ、積極的に留学説明会の開催・参加を行った。開催・参加した留学説明会は以下の通り。

- ①西北農林科技大学における留学説明会（島根大学主催、2016年5月28日、伊藤・田中）
- ②寧夏大学日本語科卒業生に向けた留学説明会（島根大学主催、2016年6月6日、田中）

- ③北京経済貿易大学における留学説明会（大使館主催、2016年10月26日、田中）
- ④日本大使館における留学手続き説明会（大使館主催、2016年11月26日、田中）
- ⑤寧夏大学における留学説明会（大使館主催、2017年3月15日、伊藤・一戸・田中）

2016年3月に伊藤所長・関副所長が大使館の横井参事官と面会した際に申し入れた「研究所を利用した留学説明会」の開催が実現。寧夏大学・北方民族大学・寧夏医科大学の学生に対して日本留学の紹介を行った。

日本側参加団体：JSPS、理化学研究所、名古屋大学、桜美林大学、久留米大学、島根大学

- ⑥中国人民大学における留学説明会（2017年3月22日、田中）

### Ⅲ - 3 - 2 留学支援

日本留学希望者に対して、相談対応（留学方法に関する説明、資料の配付等）や派遣支援（指導教官とのマッチング、書類作成指導等）を行った。

### Ⅲ - 4 資料・情報の提供

#### Ⅲ - 4 - 1 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。
- ・翻訳物一覧を研究所HPに掲載した。

【翻訳成果一覧ページ】 <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/honyakuichiran.html>

#### Ⅲ - 4 - 2 研究所メールマガジン『寧夏情報』

- ・寧夏情報（関係者向け）毎月1、2回（2016年4月～2017年3月末 11回発信）

### Ⅲ - 5 その他の活動等

#### Ⅲ - 5 - 1 寧夏大学外国語学院に対する支援

- ・講義の担当（週2回程度、今年度担当授業：会話、日本文学）
- ・日本語コーナー等イベントへの参加

#### Ⅲ - 5 - 2 研究所来訪実績

2016年度

月 日	訪 問 者
9月10日 ～12日	伊藤勝久所長
2月28日	特定非営利活動法人日本寧夏友好国流協会 新出雄彦事務局長、他2名
3月12日 ～16日	伊藤勝久所長、一戸俊義副所長
3月14日	日本学術振興会北京研究協力センター 橋本真里国際協力員、江岸助理 理化学研究所北京事務所 油谷泰明所長

## IV 研究所の組織

### ○2016年度の運営体制

役職	日本側	中国側
顧問	保母武彦 (島根大学名誉教授)	陳育寧 (前寧夏大学長)
所長	伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授)	周震 (寧夏大学教授)
副所長	一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授)	蔵志勇 (寧夏大学副教授)
	関耕平 (島根大学法文学部准教授)	
研究員	田中奈緒美 ※現地駐在	王鋒 (寧夏大学教授) 李楊

### ○客員研究員名簿

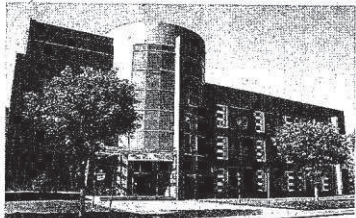
氏名	所属	研究分野
鄭蔚	中国 南開大学日本研究院	農業経済学、金融学
周建中	日本 東京成徳大学人文学部	生物環境科学、民族歴史文化、人口と教育問題
高橋健太郎	日本 駒沢大学文学部地理学科	人文地理学
胡霞	中国 中国人民大学经济学院	発展経済学、農業経済学
富野暉一郎	日本 龍谷大学法学部	市民自治、調和型連動社会、地域環境政策
胡勇	中国 北京農学院人文社会科学部	社会学、社会福祉学
張偉	中国 北京工商大学经济学院	ミクロ金融、発展金融、中小企業融資、東アジア金融協力
大西広	日本 慶應義塾大学経済学部	統計学、経済システム論、中国経済数量分析
氏川恵次	日本 横浜国立大学大学院 国際社会科学部研究科	経済政策・環境経済
谷口憲治	就実大学経営学部	農業経済
劉海濤	日本・JICA 研究所	農村金融

# V 資料その他

## V-1 新聞記事

■山陰中央新報社 2016年7月12日(火)掲載記事

# 文化



寧夏大構内にある国際共同研究所

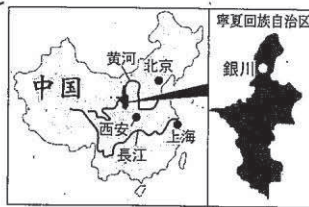
## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 課題解決型の研究交流

〈関 耕平〉

中国・寧夏回族自治区をご存知だろうか。西安の上、内モンゴルの下あたり、というイメージできるかもしれない。島根県との交流も盛んで、県民交流団として訪問し、砂漠で植林活動をした経験がある方々もいらっしゃるだろう。この地域には黄河が流れてはいるが、黄土高原の砂漠地帯が広がり、降雨量が少ない。寧夏回族自治区という名前前に表れている通り、回族、つまりイスラム教徒が多く、

## 農村問題や環境を意見交換 国際的産官学の連携を

中国でも周辺部に位置する。2005年、この地に設立されたのが島根大学・寧夏大学国際共同研究所である。JICA共通した地域課題に直面してA(国際協力機構)による円借款で寧夏大構内に4階建ての建物を整備され、現在、島根大の日本人スタッフが1人、現地の食事は豚肉を避け羊肉をよく食べるという、中国常駐している。



てに想像できないうれしさを、かに日々そんな中で、井上は自分の句作が、かえ、読者の秘密を明かしている。日記を書ける。のなる、東京での日々の生活だ。

法隆寺夢殿の救世観音像(撮影・入江泰巳)

彫りによってむしる彫やかな印象である。上方に(興福寺国宝館長)

国際共同研究所の特色は、日本と中国との唯一、中国西部(内陸部)にある研究所だ。北京や上海といった沿岸部には日本の多くの大学が出張所などを設けているが、中国の内陸部で日本人スタッフが常駐して日常的に業務を行っているのは、ここが唯一である。

度成長期に島根の農村が直面したような、あるいはもっと急激な人口減少に直面している地域もある。この共同研究所では日本の経験を活かして、地域課題への対策について現地研究者と意見交換しながら、農村問題や環境教育といったテーマで国際共同研究を進めている。現地の視察や調査を通じて、寧夏での斬新で思い切った政策に感心することもしばしば

である。つまり、周辺部(辺境?)同士が研究交流・情報共有し学び合い、それぞれが地域が直面する課題の解決に向けた研究を進めている。地域課題解決のためには研究だけでは不十分で、政策主体である自治体間の交流も鍵を握っている。幸い島根大と寧夏大の交流を縁に、島根県銀川市(自治区の省都)の交流も盛んに行われており、その中で島根県は9年にわたる下水道・水環境関連の国際貢献事業を実施し、現地でも高

く評価されている。また、松江市も銀川市との間で有機米栽培の技術指導や人材育成事業に取り組んでいる。今後はこうした県や市による地域課題解決型の国際貢献事業と、国際共同研究所の研究成果とを連携させ、さらには県内中小企業が持つ環境技術・製品の導入・進出も同時に追求する、「国際的産官学連携事業」を展開していきたい。

(島根大法文学部准教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長)

関氏が講演する、島根大学ミニシアター市民講座は16日午後1時、松江市白濁本町の市民活動センターで。高校生以上対象。無料。

# くらし

農村問題や環境教育などを研究するため、中国・寧夏回族自治区銀川市に共同研究所を置く島根大(松江市西川津町)と寧夏大は10月、持続可能な農山村地域のまちづくりを考える国際学術セミナーを松江市内で共催した。セミナーに合わせ、島根県内の中山間地域を視察した中国側所長の周震氏(46)＝寧夏大教授＝に、印象や中国との違いについて聞いた。(山口春絵)



初めて訪れた島根県の印象を語る島根大・寧夏大国際共同研究所の周震所長(松江市西川津町、島根大)

## 島大・寧夏大共同研究所、周震所長インタビュー

島根県は初めての訪問国ですが、感想を聞かせてください。

「道にごみもなく、清潔で整っていて、比較的静かな街だ。川も湖もあり、水が豊富。天候も穏やかで住むのに適していると感じる。人々は友好的で、仕事の態度もまじめだと思う」

住民主体で地域活性化に取り組む雲南市木次町機之屋地区と、廃校となった小学校の活用で知られる飯南町谷地区などを視察されたそうですね。

「セミナーに参加した中

「視察を今後の研究にどう生かしますか。」

「一日の違いはたくさんある。中国は大きいものがあるが、日本は小さくて繊細なものを好む文化だと感じた。繊細に物事を見ることや経済管理、文化の保護などは日本に学ぶべきだと思う。セミナーは14回目。毎年続いており、共同研究所の事業はおおむねうまくいっていると思う。ただ、中国人研究者の日本社会の研究については、比較的進んでいない。今後は多くの日本人、日本の農村研究に取

## 島根の印象は清潔で静か 伝統文化の保護進む農村

「日本の農村は、少人数で家庭的に経営していた。中国との違いはどんなところですか。」

「小さな例を挙げると、視察した所はごみ箱がなく、ごみ捨てがきちんとしていない。今後は多くの日本人、日本の農村研究に取

捨てるので至る所にごみ箱がある。日本は観光に行ってもごみを持ち帰る習慣があり、この点を見ると日本の行動学的な教育は進んでいると思っ

## V-2 国際共同研究所ホームページ・トピックス

### 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

**トピックス**  
[トップページへ戻る](#)

**一覧**

---

**2016**

- 2016.12.04 さくらサイエンスプランで西北農林科技大学の学生を受け入れました NE
- 2016.11.27 留学手続きセミナーに参加しました
- 2016.11.22 六次産業経済発展研究会を開催しました
- 2016.11.08 東北アジア少数民族文化教育セミナーを開催しました
- 2016.10.27 北京経済貿易大学での留学説明会に参加しました
- 2016.10.19 中国側所長・副所長が服部泰直学長を表彰訪問しました
- 2016.10.18 第14回日中国際学術セミナーを開催しました
- 2016.05.28 西北農林科技大学で留学説明会を開催しました
- 2016.05.20 2016年日中国際学術セミナー(第14回)開催及び参加者募集のお知らせ
- 2016.03.31 国際共同研究所の年報 第9号を発刊しました
- 2016.03.09 日本側顧問らが寧夏大学を訪問し、党書記と面会しました

※詳細については、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。  
<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>


### 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

**トピックス**  
[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

**国際共同研究所の年報 第9号を発刊しました**

---

この度、島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報の第9号(2015年度版)が2016年3月末に発行されました。



第9号(2015年度版)  
クリックするとPDFが開きます

ご用命の際は島根大学学術国際部国際交流課までお問い合わせください。  
TEL:0852-32-9735/FAX:0852-32-6481  
Email: [ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp](mailto:ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp)  
※メールアドレスは迷惑メール防止のため、画像ファイルで掲載しています。

過去の年報については「年報一覧」ページをご覧ください。

## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

### トピックス

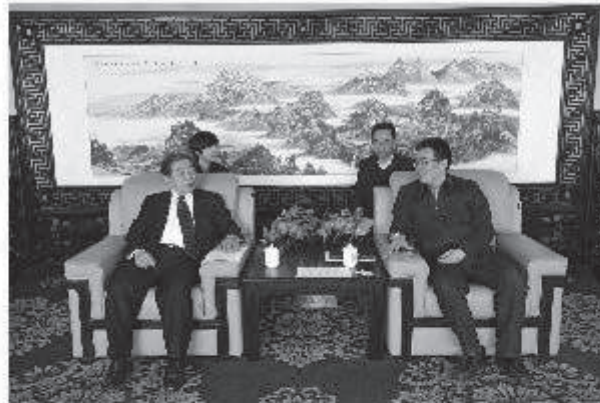
[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

### 日本側顧問らが寧夏大学を訪問し、党書記と面会しました

平成28年3月7～8日、保母武彦日本側顧問、伊藤勝久日本側所長、関耕平日本側副所長が寧夏大学を訪問し、研究所中国側メンバーとの運営委員会及び金能明寧夏大学党書記との面会を行いました。

研究所中国側は、今年1月に人事異動が行われ、新しい所長・副所長が選出されました。7日に行われた運営委員会において、伊藤所長から、今回の人事異動にもなる研究所中国側と寧夏大学外国語学院との融合に対する懸念を述べると、新しく中国側所長となった周慶所長から、融合についての説明がなされ、融合しても業務自体には変化がないこと、さらには、融合により外国語学院日本語科との関係がより近くなったことから、今後は研究交流だけでなく学生交流にも力を入れていきたいとの思いが語られました。その他、今年度のセミナーの開催時期やテーマ、その他の重要業務について協議が行われました。

8日に行われた金書記との面会では、まず金書記から昨年末に行われた学内各部署のリーダーの交替について寧夏大学全体の科学研究に関する人材育成能力を高めていくことであると説明がありました。島根大学と寧夏大学の交流の歴史、及び共同研究所のこれまでの事業実施の状況及び成果を振り返り、新しい研究共同に関して、中国西部の喫緊の問題（生態環境、都市化問題）の解決に際して日本の経験を参考にすること、寧夏大学の中国西部の発展研究、島根大学の日本の中山間地域の研究という相互の特徴を生かした研究発展と人材育成を重視すること、また両大学の特徴的分野の学生を相互派遣・交流のための経済的支援の強化にも取り組んでいきたいこと、などの意見がありました。保母顧問は、従来の固定的考え方だけでなく、柔軟に新しい国際的共同研究・学生交流を考えることが重要であると語りました。この基本的考えのもと、今後の更なる国際共同研究や学生交流事業の活発化を目指して、意見交換が行われました。





トピックス

[トップページへ戻る](#)

[戻る](#)

2016年 日中国際学術セミナー(第14回)開催及び  
参加者募集のお知らせ

- 共催: 島根大学・寧夏大学
- 実施: 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
- 日程: 2016年10月15日(土)～17日(月)
- 場所: 島根大学(島根県松江市)
- 全体テーマ: グローバル背景下における持続可能な農山村構築  
～社会システム、教育・文化、技術革新、環境対策、自然災害対策～

●セミナーの趣旨:

グローバル化が進展する中で、日中両国の農山村地域は新たな問題に直面している。それは人口減少・高齢化による従来の農山村を形作っていた社会・経済・制度・文化・価値観の変化、環境負荷の少ないそして安全な農業生産と国際競争に打ち勝つ技術開発、ICTによる新たな産業と社会システムの形成、環境問題への対応策と環境意識の醸成、さらに地域生活の安全を担保する自然災害への対策が必要になっている。今後の農山村が健全に維持されるためには、ソフトおよびハード面での維持整備と人文・社会面および技術面での対応が不可欠である。本セミナーでは、その目標を持続可能な農山村構築に設定し、そのために必要なあらゆる視点から、問題解決方法を日中両国の事例と研究成果をもとに検討する。

●行事予定:

10月14日(金): 集合(18時)

10月15日(土): セミナー1日目(島根大学生物資源科学部 号館202, 101)

開会式

主題報告(×2)

個別報告(※)

10月16日(日): セミナー2日目(島根大学生物資源科学部 号館202, 101)

個別報告(人文・社会科学系、自然科学系)

総括討論(※)

10月17日(月): 島根県中山間地域の視察(訪問先未定)

終日

10月18日(火): 解散(8時)

※報告数が多い場合、人文・社会科学系、自然科学系にわかれ、分科会方式で行います。

●参加費: セミナー参加費は無料。ホテル・食事等の費用は実費負担

全日程参加の場合: 1人47,000円(予定)

内訳 ホテル1泊(朝食付き)1人8,000円

昼食 1回1,000円

夕食 1回3,000円

視察バス代 1人3,000円

出来るだけ安価になるようにします。

●使用言語: 日本語または中国(逐次)選択つき

●報告時間: 一人30分(報告10分、通訳10分、質疑応答10分)

●アブストラクト(要旨)の提出期限: 9月30日(金)

●提出先: neika\_kenkyusho(アット)soo.shimane-u.ac.jp(担当: 田中)

※(アット)を@に変更してください。

■アブストラクトの提出をもって参加申し込みとします。

※アブストラクトの分量は、母言語でA4用紙1ページおよびその翻訳をA4用紙1ページ(計2ページ)(A4用紙の上下左右の余白は各25ミリ。日本語の場合、文字の大きさを10.5ポイント、40字程度×35行程度。MS Wordで作成し、原稿ファイルを上記メールアドレスにお送りください)

※アブストラクト提出にあたり、母言語と、中国語または日本語の対訳をつけて提出してください。対訳は各位でご手配ください。

※セミナー当日に、各報告のアブストラクト(母言語とその対訳つき)を冊子として配布します。

◆論文集の発行について(2017年3月予定)

セミナー報告のうち、島根大学・寧夏大学国際共同研究所で審査・選択されたものをフルペーパーとして提出いただき、論文集として発行する予定です。

島根大学・寧夏大学国際共同研究所よりフルペーパーの作成依頼を受けた発表者は、原稿を11月30日(水)までに提出をお願いします。

※フルペーパーは母言語のみで、A4用紙10～20ページ程度で作成ください(MS Wordで作成し、原稿ファイルをお送りください)。

## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

### トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

#### 西北農林科技大学で留学説明会を開催しました

平成28年5月28日、伊藤勝久日本側所長を代表とする島根大学訪問団計5名が中国陝西省の西北農林科技大学を訪問し、留学説明会を行いました。今回の訪問は、伊藤所長らが西部学術ネットワークに参加する各大学と行っている環境教育プロジェクトの一環として、現地調査を行うことが主な目的でしたが、昨年、島根大学と西北農林科技大学が友好提携を結んだことを受け、この機会を借りて、同校で初めて留学説明会を開催することになりました。

外国語学院の一室をお借りして行った説明会には、様々な専門の学生約60名が集まり、熱心に耳を傾けてくれました。伊藤所長から、島根大学の概況や学生生活についての紹介をした後、質問を受け付けるところ、学費や奨学金等、日本での生活に必要なお金についての質問や、島根大学で行うことができる詳細な研究分野等、さまざまな質問が飛び出しました。特に印象的だったのは、「自分が今行っている研究を島根大学でも継続して研究することができるのか」といった自分の専門性を意識した質問や、「日本語ができないが大丈夫か」「日本語のサポートはあるのか」といった、言語面の心配をする質問が多かったことです。これは、西北農林科技大学には日本語専門がなく、それぞれ自分の専門を持ちながら選択科目として日本語を学んでいる学生が多いためと考えられます。なお、日本語を担当している教員は島根大学の卒業生の後藤美智子さんです。研究所として、寧夏大学でも何度か留学説明会を行ってきましたが、このような各大学の特色に合わせて、留学説明会の内容も変えていかなければならないと感じました。今後も、内容をブラッシュアップしながら、各地域の大学での留学説明会を継続して行っていく予定です。



## トピックス

[トップページへ戻る](#)

[戻る](#)

### 第14回日中国際学術セミナーを開催しました

平成28年10月16日(土)～16日(日)、島根大学において第14回日中国際学術セミナーを開催しました。今年度は全体テーマを「グローバル背景における持続可能な農山村構築～社会システム、教育・文化、技術革新、環境対策、自然災害対策～」とし、基調講演2本、一般講演3本、分科会発表34本、計39本の学術発表が行われました。中国からは、寧夏大学、西北農林科技大学、西南大学から18名の方がご参加くださいました。

基調講演は、研究所中国側所長である寧夏大学の周震教授による「プロジェクト理論に基づく外国語習得コースの国際化モデルに関する研究」、及び島根大学の山岸主門教授による「大学開放事業から生まれた生産者と消費者の交わり・つながり」の2本で、分野は大きく違いますが、いずれも大学と地域・民間機関との関わり的重要性に触れられており、現在地域の中で大学が置かれている立場、大学が果たすべき役割について考えさせられる内容でした。

分科会では、当研究所の強みである農林経済、農業生産、貧困扶助、環境保全等の分野に加え、都市計画、汚水処理、太陽光発電、言語文化、教育学等様々な分野の発表が行われ、当研究所が担うプラットフォームとしての役割が象徴されたものとなりました。

セミナー終了後の17日(月)には、中国からの参加者向けに島根県の中山間地域を見学するエクスカージョンが設けられ、雲南市槻之屋地区や飯南町谷地区等で地域活性化の取り組みを視察しました。参加者からは、日中における農業経営方法の違いや、神社を中心として残る日本の祭りの伝承状況等について、多くの質問・感想が寄せられました。

本セミナーを通して、普段なかなか会う機会のない研究者同士が対面して交流を行うことにより、当研究所を中心とした研究者同士のつながりを更に強めることができたと感じています。



セミナーの様子



セミナー集合写真



エクスカージョン

 第14回セミナープログラム

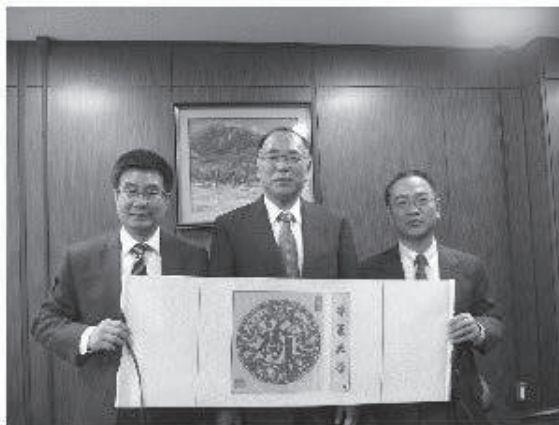
## トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

### 中国側所長・副所長が服部泰直学長を表敬訪問しました

平成28年10月18日、国際学術セミナーに参加するために島根大学を訪れていた周壽中国側所長及び戴志勇中国側副所長が、服部泰直島根大学学長に対して表敬訪問を行いました。研究所中国側は、今年1月に人事異動が行われ、新しい所長・副所長が選出されたため、今回は新しい研究所執行部による初めての訪問となります。

面会では、まず伊藤勝久日本側所長から今回の訪問の経緯とセミナーの開催状況が述べられ、周所長から、寧夏大学の何建国学長及び金能明書記からのメッセージに加え、研究所中国側として今後学生交流や成果の国際的な普及に力を入れていきたいこと等が語られました。服部学長は、島根大学と寧夏大学の長い交流に触れ、今後も事業の活発化を目指し、研究発展を重視してもらいたい旨が述べられました。



## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

### トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

#### 北京経済貿易大学での留学説明会に参加しました

平成28年10月26日、北京にある北京経済貿易大学で行われた留学説明会に特別参加しました。この留学説明会は在中国日本国大使館が主催したもので、主に北京周辺の大学において年に5～6回程度開催されているそうです。

説明会では、まず大使館の菊池書記官から日本留学の概要が紹介され、次に、一橋大学、早稲田大学、神戸大学のそれぞれの北京事務所の代表者が大学紹介や留学の手続き等について説明をされました。その後、本学も大学紹介を行い、質疑応答の時間がもたれました。

約100名の参加者がありましたが、特に印象的だったのは、交換留学の希望者が多いということです。質疑応答の時間にも、北京経済貿易大学と古くからの友好提携を行っている一橋大学に多くの質問が寄せられていましたし、本学も「交換留学生制度はあるか」という質問を受けました。現在中国では「3+1」や「2+2」プログラム等、大学4年間のうち1～2年間の授業を国外の大学で受け、双方の学位を取得するプログラムが盛んに行われています。ダブルディグリーで将来の就職等を有利にしたいと考える学生が多いことがうかがえました。



説明会の様子

## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

### トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

#### 東北アジア少数民族文化教育セミナーを開催しました

平成28年11月7日、本研究所にて、東北アジア少数民族文化教育セミナーを開催しました。本セミナーは、中国・日本・韓国における少数民族(特にイスラム教民族)の状況を報告し合い、各国におけるイスラム教徒の現状について討論することを目的として、寧夏大学と寧夏社会科学界連合会の共同主催により行われました。セミナーでは6本の研究発表が行われ、研究者及び学生約60名が参加し、日本からは、日本ムスリム協会徳増公明会長、早稲田大学店田広文教授、東京ジャーミー下山茂広輔にご発表いただきました。

本研究所は、今後も本研究所の研究プラットフォームとしての機能を最大限利用し、国内外の大学や研究組織と広く協力して、様々な分野での研究成果を広く発表していく所存です。



## 島根大学・寧夏大学国際共同研究所

### トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

#### 留学手続きセミナーに参加しました

平成28年11月26日、在中国日本国大使館日本文化センターで行われた留学手続きセミナーに参加しました。この留学手続きセミナーは、日本へ留学したいけれども手続きが複雑でよくわからないという人のために大使館が行うもので、11月11日から12月3日にわたって計10回、毎回異なる日本の大学が参加する形で開催されました。

26日の参加者は20名程度で、現役の大学生だけでなく、大学を卒業してから数年経った人も多く見受けられました。26日の参加大学は本学と金沢大学で、大使館広報文化センターによる留学の概要説明の後、それぞれ20分程度の説明時間をとり、その後個別に相談を受け付けました。日本への留学には、大学との入学に関するやりとりの他、在留許可やビザの申請もせねばならず、事前に調べなければならないことが多くあります。中国ではインターネットで正しい情報を得ることも難しい場合があり、多くの人不安を感じているようです。そのような中で、今回のように日本の大学の担当者に直接話を聞ける機会是非常にありがたいと思いますし、日本の大学にとっては、留学意欲のある学生と接触できる機会ということで双方にとってメリットのあるセミナーだと感じました。



セミナーの様子

## トピックス

[トップページへ戻る](#)  
[戻る](#)

### 六次産業経済発展研究会を開催しました

平成28年11月21日、本研究所にて、六次産業経済発展研究会を開催しました。本研究会は、寧夏大学と寧夏社会科学界連合会の共同主催により行われ、日本から就実大学谷口憲治教授、中国から中国農業大学胡耀高教授をお招きしてご講演いただき、寧夏大学の関係分野の教員・学生約40名が聴講しました。

今回の研究会により、寧夏大学の研究者と国内外の六次産業に関する専門家との交流が促進されただけでなく、持続可能な経済発展に関する先進的な理念を知ることにより、寧夏における産業経済の転換及び社会発展等に対する課題検討の機会となりました。



## トピックス

[トップページへ戻る](#)

[戻る](#)

### さくらサイエンスプランで西北農林科技大学の学生を受け入れました

平成28年11月26日から12月3日、さくらサイエンスプランにより西北農林科技大学の学生9名と国際交流処副処長の石穎賢先生が島根大学を訪れました。

今回の研修では、「日本の環境対策技術と環境教育」をテーマに、全国でも高い評価を受けている島根大学の環境教育への取り組みに関するソフトウェアを活用する形で行われました。プログラムには、大学での環境に関する講義の他、ごみ処理場や自然エネルギー利用等の視察、雲南市や邑南町での民泊も含まれており、多様な活動が組み込まれました。特に民泊では、日本の農家の生活を実感できたことから、学生たちの印象に深く残ったようです。

本学は、今後も西北農林科技大学と協力し、中国西北部を包含した地域との学术交流の実現にむけて努力していく所存です。





## V-3 島根大学戦略的経費ポンチ絵

### 中国西部地域における島根大学・寧夏大学国際共同研究所のプレゼンス強化



## V-4 事業計画

### 平成 28 年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

#### 1. 共同研究・研究交流事業

##### (1) 日中共同学術研究の推進

- ① 環境教育実践システムの移転とグローバル人材育成の実施に関連した国際共同研究の実施（寧夏大学・西南大学・西北農林科技大学）
- ② 中国側研究者による国際比較研究（日本中山間地域の調査研究等）の受け入れ・支援
- ③ その他の個別研究および共同研究の実施（西北農林科技大学動物科学院、蘭州大学草地農業科技学院との畜産関連共同研究等）
- ④ 民間助成をはじめとした外部研究資金への申請と獲得

##### (2) 学術交流事業の実施

第 14 回日中国際学術セミナーの実施（テーマ：グローバル背景下における持続可能な農山村構築～社会システム、教育・文化、技術革新、環境対策、自然災害対策～、2016 年 10 月 15-17 日に島根大学において開催予定）

(3) 研究ネットワークの拡充

- ①日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- ②中国西部地域の学術ネットワークによる研究プロジェクトの推進（西北農林科技大学・寧夏大学）
- ③西南大学（重慶）、青海大学との研究交流の推進と蘭州大学との研究交流開始
- ④日中国際学術セミナー開催とあわせて、国際共同研究マッチングワークショップを開催し学内外の研究ネットワークを拡充する
- ⑤客員・兼任研究員の増員

(4) 研究成果の発信

- ①国際共同研究の成果に基づく研究専門書の出版準備  
2008年以來の研究所による研究成果の出版に向けて、原稿執筆依頼・編集作業を進め、2016年度中に出版する
- ②HPの充実による研究成果の発信強化

## 2. 国際的産学官連携事業の実施に向けて

島根県・寧夏回族自治区の間で3期9年にわたって行われたJICA草の根技術協力事業（下水道整備および流域計画）の後継事業について、2017年度から実施すべく、外務省、JICA、文部科学省などとの調整を行う。さらに松江市と銀川市との有機米に関する人材育成事業の後継事業に関しても実施に向け、各主体との連携・調整を図る。

## 3. 人材育成事業

- (1) 中国西北部における日本への留学に関する合同説明会や日本留学試験の開催と実施に向けて、日本大使館や文科科学省と連携調整を図る。
- (2) さくらサイエンスへの申請により、中国西部学術ネットワークによる連携大学からの学生招聘と交流を、とくに環境教育分野において実施する。
- (3) 留学生獲得に向けた協力  
北方民族大学（銀川市）を始めとした中国西北部各地の大学での留学説明会を実施する。
- (4) 寧夏からの留学経験者等の情報交換ネットワークの形成支援
- (5) 若手研究者の育成  
国際学術セミナーおよび現地調査に参加する日中若手研究者の人材育成を推進する。
- (6) 自治体間国際交流・人材育成研修への協力  
銀川市農牧局からの松江市への有機米生産に関する人材育成研修受け入れに対する協力

## 4. 教育・交流への協力

- (1) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の運営と充実
- (2) 寧夏大学日本語学科への講義の協力、実習生の受け入れ
- (3) 寧夏大学やその他周辺主要大学の留学希望者に対する情報提供と留学説明会の実施
- (4) 島根県、松江市やNPO 法人 日本・寧夏友好交流協会等との情報交換・連携の強化（寧夏・銀川連絡会の開催）

## 5. 研究所の運営

- (1) 各種委員会の開催
- (2) 研究所年報の発行（第10号、2016年度版）
- (3) 研究資料の配信
  - ① 情報提供（寧夏情報の提供、ニューズレターの発行、研究所ホームページの充実）
  - ② 文献翻訳・関連論文の提供
- (4) 国際共同研究所の広報の強化
  - ① 山陰中央新報社からの同行取材の受け入れ
  - ② JICA、JSPS、JST への訪問による情報交換と成果発信
  - ③ JSPS による日本の中国所在大学サテライトの交流組織・希平会への出席による情報発信

---

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第10号 2016年度

2017年3月31日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所  
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学A区  
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学内  
TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

---